

## ソビエト連邦における貴重植物の保護 — 文献紹介 —

豊 国 秀 夫\*

### Protection of Rare Plants in the USSR — A Summarised Review of Current Books —

Hideo TOYOKUNI

ソビエト連邦には、20,000種以上の維管束植物 (vascular plants) が生育していて、その中の1割に当たる2,000種が、珍しいか絶滅の危険にさらされている植物であると言われている。1975年には、タフタジャー (A. L. Takhtajan) 編の「ソビエト連邦における保護すべき自生植物種」<sup>(注1)</sup>が、レッド・ブック<sup>(注2)</sup>として出版され、また1978年には、ボロディン (A. M. Borodin) らの編集による貴重な動・植物のレッド・ブックが現われ、<sup>(注3)</sup>その中で亜種を含む444の植物が貴重および絶滅する恐れのあるものとしてリスト・アップされた。

その後、稀および減少しつつある植物についての報告は、地域別にもいくつか出版された (ウクライナ共和国 1978, 1979, モルダビア共和国 1978, アルメニア共和国 1979, ウクライナ・白ロシア・モルダビア 1980, 中央シベリア 1979, シベリア 1980 など)。

広大な地域をかかえるソビエト連邦としては、20年位前から調査を始めたようであるが、調査が仲々行きとどかない地域が大分あり、基礎的な資料を得るのも大変で、例えばシベリア地区を担当したマリシェフ (L. I. Marlyshev) などは、1972年に本紹介者がイルクーツクの科学アカデミーの研究所を訪れた際、数カ月にわたる調査に出掛けて不在であった。

貴重な動・植物を調査し保護しようとするソ連の努力には見るべきものがあり、1980年7月に英国のケンブリッジで開かれた貴重な植物の保護についての国際会議では、ベロウソヴァ (L. S. Berousova) とジェニソヴァ (L. V. Denisova) の連名で1篇、ティホミロフ (V. N. Tikhomirov) が1篇、それぞれ報告をしている。<sup>(注4)</sup>

ここでは、1981年に出版された、タフタジャー編<sup>(注5)</sup>「保護すべきソビエト連邦の稀および消えつつある植物」を主として紹介することにする。本書は、前述のタフタジャー編1975年版の第2版に当るもので、地域別の調査結果の集大成されたものと考えられる。本書では、先ず稀および消えつつある植物を種あるいは属単位で解説した後、ソビエト連邦全域を10地区に区分して、それぞ

れの地域毎の稀・減少種がリストされている点で、類書の中でも、特にユニークな存在である。

目次に番号はつけられていないが、「編集者から」で始まり、「緒言」の後に「現在のソビエト連邦フローラの遺伝子給源<sup>(注6)</sup>保護の問題」、「ソビエト連邦フローラの稀および消えつつある種の地域別目録」、次に「文

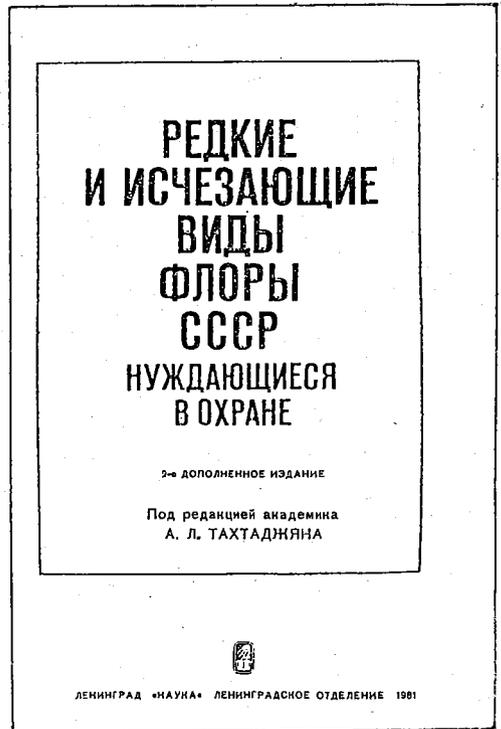


図1. 1981年発刊「保護すべきソビエト連邦の稀および消えつつある植物」の扉

献」、「いくつかの野生種の分布域」があり、最後に、「植物の学名索引」がつけられている。

以下、内容を御紹介すると、「緒言」では、減少度を0~4、すなわち5段階で示すことが提示されている。

0. 外見上消滅した：長い年月の間に自生は無くなっ

\* 信州大学教養部生物学教室

たが、離れた近づき難い地域にあるか、あるいは栽培によって保存されているかも知れない種。

1. 消滅の危機に置かれている：消滅の危険に直接さらされている種；更にそれらの存在は、特別な範囲の保護なしには不可能なもの。
2. 稀種：直接的消滅の恐れがある訳ではないが、量がすくないとか、急に消滅するような特別の場所に限られて生育している種。
3. 減少した：個体数がすくなくなり、また一定時間内に自然的原因あるいはヒトの干渉によってか、または、その両方により分布域が狭まったもの。
4. 不確定：恐らく絶滅の危機にひんしているものもあろうが、それらに関し、現今の状況下信頼すべき推定が許されない、情報の欠乏している種。

科)のPinus(マツ属)では、Pinus brutiaの3亜種が、それぞれ詳しく解説されている。それは、亜種毎の分布域が狭く、貴重度が高いために亜種の段階まで取り上げられているのである。

また、この目録中で学名変更のなされたものもあり、それらは次の3件である。

*Myosotis czekanowskii* (Trautv.) R. Kam. et V. Tichomirov [ p. 60 ]

*Iris hippolyti* (Vved.) R. Kam. [ p. 102 ]

*Rhamnus seravschanica* (Kom.) R. Kam. [ p. 154 ]  
いずれも R. V. Kamlin による新組み合わせであり、basionym の引用があるので有効出版と考えられる。

この目録に関する限り、属や種の大きさについて、全体的な統一はなく、分担者の見解によって、かなりな多

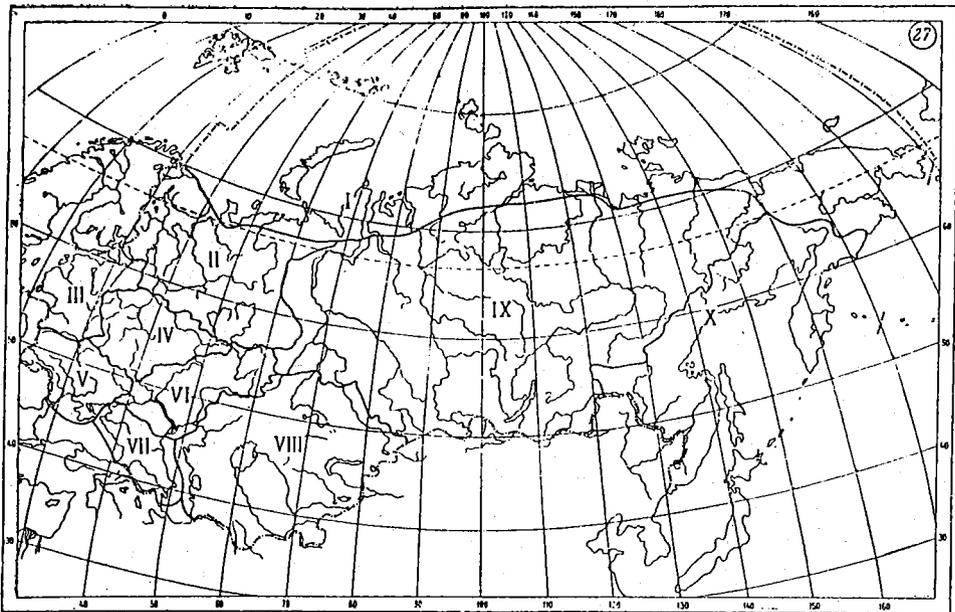


図2. ソビエト連邦の地域別植物目録がつくられた10の地域 (I-X) (本文参照)

「ソビエト連邦フローラの稀および消えつつある種の目録」では、シダ植物と種子植物が一緒になって科名の学名のアルファベット順に配列され、Alismataceae (オモダカ科)で始まり、Zygophyllaceae (ハマビシ科)で終わっている。科の内部の記述は統一されておらず、属名の学名のアルファベット順に並べられているが、大多数は、いきなり種の学名が書かれ説明がつけられている。中には、属の説明があって、ソ連には12種産するという記述の後に、唯1種だけあげられている *Amaryllidaceae* (ヒガンバナ科)の *Galanthus* (ガランツス属)のような場合もあれば、簡単な属の説明があった上で、種があげられている場合もある。Pinaceae (マツ

科)性を示している。

「ソビエト連邦フローラの稀および消えつつある種の地域別目録」では、第2図に示すように、ソ連を次の10地域に分け、それぞれに植物目録がつけられている。

- I ソ連北極地域(ソ連北東部の亜寒帯山岳地域を含む)
- II ソ連北西部(北・中ウラルを含む)
- III ソ連北西部(バルト海沿岸および白ロシアもこの中に含まれる)
- IV ソ連中部
- V ソ連南東部(南ウラルを含む)
- VI ウクライナおよびモルダビア

- Ⅶ. コーカサスおよび後コーカサス
- Ⅷ. 中央アジアおよびカザフスタン
- Ⅸ. シベリア
- X. 極東

これら地域別目録の中で、日本の植物分布と関連づけて考える時、重要な地域はシベリアと極東であるが、特に興味があるのは極東である。ここでは282種がリストされている。モミ属の *Abies gracilis* Kom. のように本本ではあるが、分布域がきわめて狭い種もある。日本特産と考えられている *Bupleurum nipponicum* K. Pol. (ハクサンサイコ) もリストにあるので、念のため1966年に発刊された、ヴォロシロフ (V. N. Woroshilov) の「ソビエト極東植物誌」<sup>注7)</sup> に当たって見たら、千島のクナシリ島からの記録が載っていた。宮部金吾・館脇操両博士により樺太から報告された *Miyakea integrifolia* Miyabe et Tatewaki (ヒトツバオキナグサ) の名も見られ、また日本特産と考えられている *Nepeta subsessilis* Maxim. (ミソガワソウ) の名もあるので、樺太(サハリン)か千島(クリル)で発見されたのであろう。リスト中には *Wasabia japonica* Matsum. (ワサビ) の名もあった。目録中、*Gentiana nipponica* Maxim. (ミヤマリンドウ) もあるが、これはリシリリンドウ、すなわち、*Gentiana jamesii* Hemsl. の間違いである。

「いくつかの野生種の分布域」では、26枚の地図に、127種の分布が示されている。

本書には、余り良い写真ではないが、植物目録中に、42葉の写真がアート紙両面刷りで挿入されている。大部分は Orchidaceae (ラン科), Liliaceae (ユリ科), Iridaceae (アヤメ科), Amaryllidaceae (ヒガンバナ科) などの単子葉植物で、いささか選択が偏りすぎているように思われる。

とに角、このような書が出版されたことは大変喜ばしい事であり、国を越えた全世界的な自然保護に絶大な貢献をするものと考えられる。

注1) A. Тахтаджян (ed.) 1975. Дикорастущие Виды флоры СССР, Нуждающиеся в Охране.

注2) Красная Книга 英語では Red Book とか Red Data Book と言う。白書に対して「赤書」と訳すのもおかしいので、「レッド・ブック」とした。

注3) A. M. Бородин et al. (ed.) 1978. Красная Книга СССР. Редкие и Находящиеся Под Угрозой Исчезновения Виды Животных и Растений.

注4) L. Belousova and L. Denisova 1981. The USSR Red Data Book and Its Compilation, in H. Syngé (ed.) The Biological Aspects of Rare Plant Conservation, pp. 93-99. V. N. Tikhomirov 1981. Regional Rare Plant Conservation Schemes in the USSR, *ibid.*, pp. 101-104.

注5) A. Тахтаджян (ed.) 1981. Редкие и Исчезающие Виды Флоры СССР Нуждающиеся в Охране.

注6) Генофонд 手元の露和辞典、露英辞典には見当らず、生物学辞典にも載っていないが、内容から gene pool に当ると考えられる。

注7) В. Н. Ворошилов 1966. Флора Советского Дальнего Востока (Конспект с Таблицами для Определения Видов).